

第25回宇美町少年・少女の主張大会最優秀賞 令和6年度「青少年の声」標語入選作品

11月9日(土)中央公民館大ホールで、宇美町教育の日「学びでこどもの笑顔をうみだすまち」研究大会の午前の部として、町青少年育成町民会議が主催する「第25回宇美町少年・少女の主張大会」が開催されました。本大会は小中学校にオンラインで配信され、全児童生徒が教室で大会の模様を視聴しました。今月号は、最優秀賞に選ばれた小学校の作品をご紹介します。

「宇美町少年・少女の主張大会」とは

子どもたちに、広い視野をもって論理的に物事を考える力や自分の主張を正しく理解してもらう力、柔軟な発想力や創造力などを身につけてもらうことを目的として実施されています。今回は、各小中学校の代表が、「こどもたち(自分たち)にとって、よい町にするためにはどうしたらよいのか」をメインテーマに主張しました。



最優秀賞 宇美小学校 6年 太田 凜(おおた りん)さん お互い様の大きな輪

「お姉ちゃん。ちょっと手伝ってー。」
これは私がよく、家族に言われる言葉です。
私には妹が二人います。私は長女なので、家事や手伝いを妹たちより多く頼まれます。

妹たちがけんかを始めると、私は「止めない」と、心の中では思います。でも、止め方が分からずに、大体面倒くさくなります。そんな時は、いつもお母さんの出番。

お母さんはご飯を作ったり、洗濯をしたり、掃除をしたりと、毎日とても忙しいです。私と妹たちの相手もし、仕事もしています。お父さんが単身赴任の上、最近、犬も飼い始めたので更にお母さんの役割が増えました。

そんな忙しいお母さんと重なり、最近私の目には、幼稚園に送り迎えをしている大人たち、買い物袋をもつ大人たち……。みんな大変そうに映るようになりました。「きっと家では、もっと大変なんだろうな。」なんてことも思ったりします。実際、私のお母さんも外で平気そうな顔をしていても、家に帰ると一息つく暇もなく家事をしています。自分のことは後回しで、私たちのことを最優先に考えて動いてくれます。結果、お母さんの自由な時間はほとんどありません。

なぜ大人たちは、他人を頼ることなく、家族だけで子育てをしようとするのでしょうか。

核家族化が進み、助けを求められる人が近くにいないためでしょうか。他人に迷惑をかけたくないという、日本人に強い考え方も影響しているのかもしれない。そういえばお母さんもよく、「人に迷惑をかけちゃだめ。」と言います。しかし、子育てに関して誰かを頼ることは、迷惑をかけることなのでしょうか。また、いけないことなのでしょうか。

自分が、親になった姿を想像してみます。

子どもが幼稚園に入るまではきっと、自分で育てなくてはならない気持ち強く、どこへ行くにも子どもと一緒に、一人の時間がほしいと願っ

ても、きっと無理でしょう。

入園後は、仕事を再開するでしょう。お母さんと同じく仕事を終えてすぐ、育児と家事をすることになります。人に頼らず、家族だけで子育てをすることはきっと、私には大きな負担になります。正直自信がありません。

そこで、私の自信につながる子育てサービスを三つ考えてみました。一つ、子ども迎えサービス。これがあれば、仕事で遅くなっても、安心して仕事に集中することができます。

二つ、調理代行サービス。材料の準備さえしておけば、ご飯を作らなくてはいない負担と、失敗による作り直しもなくなります。

三つ、子育てプロいつでも相談サービス。不安なことがあっても気軽に相談できると、心の余裕が生まれます。

子育てで支援について調べてみると、実は、私が考えた三つとも、すでに似たようなサービスがあることが分かりました。でも、お金がかかったり、安全上の問題があったりするため、簡単に利用することはできません。

子育てについて考える中で私は、誰かを頼ることは、迷惑をかけてしまうことになることはあっても、いけないことではないと思うようになりました。子育てには、協力者と頼れる人が大切だと思うからです。画面や電話の向こうだけではなく手が届く距離に。

「お姉ちゃん。ちょっと手伝ってー。」

今はまだ、嫌だ・迷惑だと感じることもあります。でも、将来の私もきっと誰かを頼ります。つまり、お互い様なのです。

宇美町は、子ども会や自治会の活動が減っています。地域の人たちの関わり合いも減ってきています。そのような中では、私は安心して子育てができません。そこで、ここにいる皆さんにお願いがあります。お互い様の輪を大きくするために力を貸してください。

将来私は、ご近所さんに言いたいのです。

「お隣さん。ちょっと手伝ってー。」

小中学校から選考された標語作品を町青少年育成町民会議で審査を行い、入選作品が決定しました。今月号は、小中学校の作品をご紹介します。

「青少年の声」標語とは

「学校・地域・家庭」をテーマに、「ふるさと・宇美町」の未来、あいさつや人を思いやる心の大切さなどについて、考えてもらうことを目的として実施されています。各小中学校から応募があった全2,875作品の中から最優秀賞、優秀賞を掲載します。

宇美小学校

優秀賞 1年 柿原 成希(かきはら なるき)さん
「おはようで えがおのいちにち はじまるよ」

優秀賞 4年 柴戸 毘良来(しばこ ひらく)さん
「分かち合い みんなでつなぐ 思いやり」

宇美東小学校

優秀賞 2年 松下 柚葉(まつした ゆずは)さん
「あいさつは 心と心の ハイタッチ」

優秀賞 5年 中川 心(なかがわ じん)さん
「みんなで協力助け合い 光りがややく 宇美町に」

井野小学校

優秀賞 1年 平野 優乃(ひらの ゆの)さん
「みまもりたい いつもあんしん ありがとう」

原田小学校

最優秀賞 1年 権丈 遥悠(けんじょう はるちか)さん
「あいさつで げんきをあげたり もらったり」

優秀賞 4年 松田 岳(まつだ たく)さん
「あいさつは してもされても うれしいな」

桜原小学校

優秀賞 2年 武井 咲奈(たけい えな)さん
「おはようが きらきらハートの かくしあじ」

優秀賞 6年 富田 結月(とみた ゆづき)さん
「ありがとう 一言だけで うれしいな」

最優秀賞 5年 本田 悠夏(ほんだ ゆうな)さん
「どうしたの ふみ出す一歩 晴れる空」

福岡Iブロック 芸術文化のつどい開催

11月24日(日)、「ふくおか県芸術文化祭 福岡Iブロック芸術文化のつどい」が町立中央公民館で開催されました。

本大会は、糟屋地区1市7町の文化協会と宗像市文化協会、福津市文化協会の合同で、毎年、開催地の文化協会が持ち回りで開催している舞台発表会です。

オープニングアクトの宇美町内3中学校吹奏楽部の演奏をはじめとして、ダンスや、詩吟、舞踊、楽器演奏など多彩な演目が上演され、会場は大いに盛り上がりました。

宇美町3中学校
吹奏楽部の演奏▶



▲次年度開催町(久山町)への引継ぎ式

体験交流イベント開催

11月17日(日)に、こどもに多様な体験活動を提供する「体験交流イベント」が開催されました。段ボール遊びやシャボン玉遊びなどの遊び場や、木工体験や音楽体験、お絵描きやベビー・キッズマッサージなど、さまざまな体験ブースが開かれ、たくさんのこどもたちが笑顔で活動をしていました。参加者からは、「普段家ではできないようなことが体験できて良かった」「楽しかったのでまた来たい」といった感想が寄せられました。

折り紙ヒコーキ体験▶



▲ジュニア・シニアリーダーのバルーンアート体験

宇美町教育の日 『学びでこどもの笑顔をうみだすまち』 研究大会

11月9日(土)に生涯学習に関する全国研究大会が開催されました。午前は、「少年・少女の主張大会」と「こども会議」が実施されました。「自分たちにとってよい町にするためには」をメインテーマとして発表や会議が行われ、参加児童生徒からさまざまな意見や提案が出されました。午後は、福岡県立による基調報告、「弁当の日おいしい記憶のエピソード」にて特別賞を受賞した井野小学校6年上田浩平さん(広報うみ令和6年5月号「まちの話題」にてご紹介)より、生涯学習に関する取組の報告として、「弁当の日を本来の姿にするための計画」について発表されました。その後、映画「弁当の日」監督の安武信吾氏より講演が行われました。参加者からは、「こどもの可能性や能力の高さを改めて感じた」といった感想が寄せられました。



▲講演をする安武さん

第52回 糟屋地区美術展 受賞者

10月23日(水)～29日(火)、第52回糟屋地区美術展が志免町で開催され、宇美町からは4人が栄誉ある賞を受賞しました。おめでとうございます！

賞	部門	題名	受賞者
糟屋地区社会教育振興会賞	洋画	毎日の生活	村川 真弓
糟屋地区議長協議会賞	書	王維詩(終南別業)	前島 正秀(龍雲)
奨励賞	洋画	初夏の候	武内 清子
奨励賞	洋画	春の村を歩く	有村 幸男



▲糟屋地区社会教育振興会賞 洋画「毎日の生活」 村川 真弓さん